**共に84歳夫婦の気ままな九州二人旅**

**＜期間＞**2023年10月30日～11月2日（3泊4日）

行いが良いせいか、全日雲一つない天晴れの好天に恵まれました。

**＜行き先と楽しみ＞**

**（阿蘇）**絶景パノラマ観光ドライブと阿蘇中岳火口散策

**（熊本）**熊本城見学と馬刺料理

**（雲仙）**温泉地獄と雲仙妙見岳から紅葉と普賢岳と平成新山展望

**（長崎）**大浦天主堂とグラバー園周辺散策

　懐かしい思い出の六甲高校卒業旅行とほぼ同じコースを66年ぶりに周遊

**＜旅程＞**

30日　新大阪から熊本まで、新幹線“さくら”

熊本駅前でレンタカーを借りて阿蘇へ　＜阿蘇で宿泊＞

　31日　熊本へ戻り、熊本城見学　＜熊本で宿泊＞

　1日　　有明海をフェリーで島原半島へ渡り雲仙観光　＜雲仙で宿泊＞

　2日　　雲仙から長崎へ走り市内観光

　　　　　長崎空港でレンタカーを返却して大阪伊丹空港へ

　　　　　レンタカーの走行距離は約350kmでした

本来なら自宅からマイカーで、神戸港か大阪港から九州往復フェリーを利用するのがスタンダードですが、今回は新幹線“さくら”に乗りたかったので上記のような旅程になりました。

新大阪8時53分発の“さくら”で熊本に12時6分に到着。3時間の退屈な時間を車窓からの眺めを楽しみながら過ごす積もりでいましたがトンネルと防音壁が多く、早朝起床によるまどろみで随分と早く着いたような感じでした。

予約していたレンタカーを熊本駅前で借りて阿蘇へ向けて出発。車はトヨタYARIS、コンパクトカーなので直ぐに運転にも慣れ、NAVIに導かれるままに

以前から走りたかった「ミルクロード」へ。「ススキの絶景日本一」に選ばれた黄金色に輝く広大なススキ野原が広がる大草原の間を、縫うように続く北阿蘇外輪山の道で、沿道の牧場から牛乳を搬出するのに使われたのが「ミルクロード」の名前の由来です。道路沿いには数カ所の展望所がありますが、最高の絶景パノラマを堪能できる「大観峰」で暫し感動しながら散策。66年前の卒業旅行でも

ここに立ち寄って同じ眺めを観ているはずだが全く記憶の外。しかし高齢の今の方が遙かに強く目に焼き付いたと思う。外輪山から一気に大きなカルデラへ下り、阿蘇市を通り抜けて南阿蘇の宿に宿泊。

　二日目は昨日の長旅の疲れもなく快調な目覚め。朝焼けに美しく輝く紅葉を

愛でながら「阿蘇中岳火口」へ。ここには2年前の大爆発で、死者58人行方不明5人を出し戦後最悪の火山災害が記録されている。多数の防災シェルターや道路面に残っている無数の爆発噴石の保守跡と、立ちこめる強い火山ガス臭により、おどろおどろしい雰囲気が感じられて長時間の滞在は避けたい気持ちであった。爆発噴石により破壊された、古いバス待合所やレストラン施設の残骸を見ながら中岳火口を後にした。阿蘇五岳の一つ、烏帽子岳の中腹にある広大な草原「草千里ヶ浜」に寄り、しばし牧歌的な風情を感じながら小休止を取った後、

「阿蘇パノラマライン」を走って一路熊本へ向かう。

　熊本のホテルにチェックインして休む間もなく、ホテルの直ぐ前の「熊本城」へ入城。大阪城を見慣れている私達でしたが、想像していた以上に大きな城に

驚くと共に、その波瀾万丈の歴史を知ることができ、歴史大好きの私達夫婦には多くの新しい知識が習得できた大変楽しい一時であった。この城は加藤清正が

築城したことはよく知られたことだが、僅か親子二代で徳川家により謎の改易が命じられ細川家の城として長い時代が続いたが、西南戦争の西郷軍と政府軍の戦いで多くが焼失した。その後、明治と平成の2回の大地震で大きな被害を受け、平成大地震の爪痕は7年後の今も生々しくあちこちで修復工事が行われていた。建築資材の高騰や城専門職人の不足から何時修復が終わるか見通しができないと聞きました。夕方になり城の閉門に流れる「蛍の光」を聞きながら

熊本城を後にして待望の「馬刺し」を食べに町の割烹店へ。馬刺しメニューは

いろいろあったが店主お勧めの赤肉と白い油のタテガミ肉のコンビが日本酒と合いとても旨かった。

　三日目は熊本港からレンタカー共々フェリーで有明海を約1時間掛けて島原半島へ渡る。島原にも観たい所はあったがパスして「雲仙温泉」へ向かう。最初に「雲仙ロープウェイ」で海抜1300mの上空を空中散歩しながらパッチ模様の紅葉を楽しみ、頂上駅展望台からは近くに「普賢岳」と自然の力が想像できる「平成新山」が、遠くは天晴れ快晴により「阿蘇･天草･霧島」までが展望できた。その後、雲仙の温泉街と温泉地獄を散策したが、思いの外、規模が小さく寂れた感じで観光客の姿もまばらであった。ホテルの関係者から、来訪者の対象を団体中心から個人中心へ変えて行く過程にあると聞いたが判るような気がする。

　いよいよ最終日4日目、ホテルから高速道路で長崎市内へ直行。「大浦天主堂」の近くの市営駐車場にレンタカーを止めて、年を取るに従い、苦手になりつつある坂道と階段ばかりの道を歩いて観光。「大浦天主堂」だけは卒業旅行の残像として何となく記憶に残る懐かしさを感じた。国宝に指定されている美しい建物は長崎のシンボルである一方で、日本人が「信仰の自由」を獲得する苦難の歴史記録でもある。中でも「26人の殉教」の話は忘れられない史実である。秀吉により24人の修道士・信者が捕えられて、京都や堺で引き回された後、長崎まで真冬の道を歩かされた。途中2人が自発的に加わり、長崎で十字架に掛けられたのは426年前のこと。この大規模な殉教は西洋にも伝わり聖人に列せられ、今も「二十六聖人殉教図」が堂内に掲げられていた。

　「大浦天主堂」を出て「グラバー園」に向かったが、一般の観光者が通る道ではなく、YouTubeで調べていた長崎の特徴である坂と階段の住宅街の裏街道を通り、住民が使うエレベーターを二つ利用し「グラバー園」の裏口から入園。

面白いコースでした。日本の近代化に貢献した貿易商ト－マス・ブレーク・グラバー、彼が家族と住んだ「旧グラバー住宅」を含め西洋建築9棟が公開されているが、経年劣化で修理中のものが半数あった。建物の中は神戸の異人館とほぼ

同じで異人館を何度も観たことのある私達には、特に感じるものは少なかった。

しかし、この園からの長崎湾の展望は素晴らしく、グラバーさん達も毎日眺めを楽しんでいたに違いないだろう。

　歩いての観光で疲労感が出てきたし、12時近くになっていたので、小休止をかねて昼食に「本場のちゃんぽん麺」を頂くことにした。結構美味しかったね。

食事休暇をしたらもう歩く気がしなくなり、行く予定の「出島」や「長崎孔子廟」はスキップして、少し早い目に長崎空港へ向かいレンタカーを返却して空港で

チェックイン。大阪伊丹空港に無事到着し、20時頃に帰宅し今回の旅を終了。

家に入ると直ぐにテレビのスイッチを入れて、休む間もなく日本シリーズのタイガース対オリックス第5戦をワイワイと観戦。見事タイガースが勝利して日本一に王手を掛けたので旅の疲れもすっとび熟睡できた。

短期間であったが今回の九州への旅は、天候に恵まれたこともあり大変充実した素晴らしい時間を過ごせ、夫婦の良き思い出の一頁になり感謝･感謝です。